

国指定文化財の民家

旧森江家住宅

鏡野町には、国指定の文化財が2件あります。一つは奥津溪（名勝）で、もう一つは今回お話す富西谷の旧森江家住宅（建造物）です。

現在旧森江家住宅は富振興セン

ター南側にありますが、かつては現在の場所から約4km南西にある大地区にあった農家で、県内でも年代の古い建物として文化庁から調査官が来村し、綿密な調査が行われた結果、森江家が文化財として認められるべき建物であるとされ、昭和四十四年に国の重要文化財に指定されました。指定当時は老朽化が激しく、空き家となっていました。貴重な文化



旧森江家住宅



旧森江家活用事業のようす（11月9日）

の「まや」が設けられ、寒冷地の中で牛馬が凍えないよう、大切にされていたことがうかがえます。

森江家の由緒や建築年代については明確な資料は残

されていませんが、建築の質や家に伝わる古文書等から中規模の農家であつたようで、建築年代は江戸時代中期、十七世紀末頃と推定されています。その後、幾度か増築や改修が行われましたが、移築工事の際に建築当初に近い形に復元されました。

旧森江家が指定された昭和四〇年代は、町の北部にはこのような民家は多く存在しており、この地域の人々にはそれほど珍しく貴重な存在であるとは思わなかったかもしれ

せん。また、国指定の建造物といえ、神社やお寺、城郭など豪華な装飾で覆われた大きな建物ばかりをイメージしてしまいがちですが、森江家はこれらとは違った、江戸時代の庶民生活を研究する上での重要な価値を見出され、国の指定文化財となった

小瀬甫庵のご子孫来町

10月18日（火）、安土桃山時代〜江戸時代初期の学者で『太閤記』の著者、小瀬甫庵のご子孫が来町しました。小瀬甫庵は以前にも紹介しましたが、寺和田の日上山城主、小瀬秀正と同一人物という説があり、甫庵が生涯を終えた金沢市に在住する丹羽よし子さんと、兄で東京在住の蚊野徳太郎さんがそれぞれ夫婦で小瀬甫庵の顕彰碑を見学しました。



のです。

富地域では、この貴重な文化財を継承していくために、毎年富小学校6年生を対象に旧森江家活用事業を実施し、昔の遊びや生活の体験を行い、囲炉裏を囲んで食事をしながら、町文化財保護審議会委員の皆さんの話を耳を傾けています。こうした取組が郷土愛を育み、文化財保護意識の向上につながっていくのではないのでしょうか。

旧森江家住宅は見学可能です。見学の際は富振興センターもしくは富公民館へ連絡して下さい（見学無料）。

参考資料：『森江家移築修理工事報告書』、『鏡野町の文化財』

お問い合わせ先

生涯学習課 日下

電話（0868）541-7733